

## 農業後継者育成基金事業

### 令和3年度農高・農大就農促進対策事業(農高就農促進対策助成)

事業主体名 鹿児島県立伊佐農林高等学校

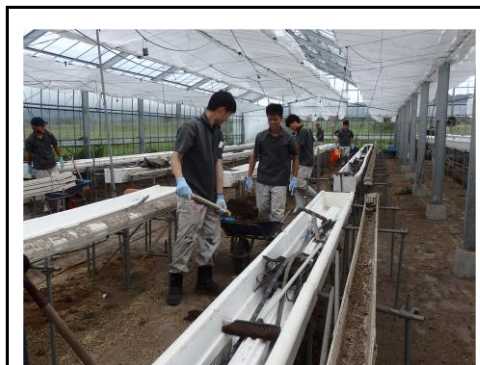
#### 1 目的

地域農家に対する援農活動，地域農産物PRイベントでの体験学習，さらに先進的農家や農業大学校等の視察研修を通して，地域の農林業及び関連産業への興味・関心をさらに高め，就農意欲の向上を図る。

#### 2 実施状況

##### (1)地域農家との協働・交流の実施

農林技術科3年生(22人)が，7月の北薩大雨により被災した地域農家の支援活動を実施し，地域農業の現状と課題ならびに地域防災について学習した。活動先はイチゴの施設栽培農家で，河川の氾濫によりハウス内に散乱した培養土の除去作業に取り組んだ。活動を通して，気温の寒暖差が大きいという地域の特徴的な気候が農業生産には好条件であること，川内川の水位上昇により支流河川は氾濫しやすく自然災害の影響を受けやすいことなどを学んだ。



地域農家との協働・交流

##### (2)教科研修の実施

農林技術科1年生(18人)が，酪農業全体にわたるロボット・ICT技術化により「トータルスマートファーム」の実証に取り組んでいる農事組合法人を視察した。生徒は，普段の実習では関わりのない乳牛にたいへん興味を示し，最新機器の説明に対して熱心に質問をしていた。多くの生徒にとって，酪農業が進路選択肢の一つに加わったようである。



教科研修(酪農)

##### (3)課題研究発表会の実施

菱刈環境改善センター大ホールで課題研究発表会を行い，農林技術科1～3年生(66人)が参加した。発表は2・3年生の専攻班ごとに行い，進級後の専攻班の選択材料にするため1年生もすべてを視聴した。また，発表後はそれぞれの研究内容をまとめ，課題研究集録の掲載原稿を執筆した。発表および原稿執筆の過程で，データ分析や説明資料作成に関する知識・技能を習得し，専門教科の学習成果に対してさらに自信を深めたようである。



課題研究発表会

#### 3 今後の課題，取り組み

農林技術科では，農業と林業に関する専門的学習を深めるため，2年生から園芸・大家畜・中小家畜・食品加工・林業の五つの専攻班に分かれて学習を行っている。学年が上がり，専攻学習が深まるにつれて，各専攻の専門性に対する興味・関心が高まる傾向は認められるが，そのことが卒業後の進路選択に必ずしも反映されてはいない。今後は，引き続き関係機関との連携を図りながら，地域の農林業が抱える課題を見極め，それを主体的に解決する能力を育むとともに，体験的学習により得られた知識や技術を十分に生かすことのできる進路選択につなげたい。

一方，これまで実施してきた地域農家との交流活動や各種イベントにおける地域農産物のPR活動，先進的農家および農業大学校での視察研修などについては，新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により実施が困難になる局面が増えた。このことから，感染状況等に応じて柔軟に形態を変えながら，実際に実施したときの成果に少しでも近づけるような取組を模索していきたい。